豊かな稔りに。日本の農業を応援します。
平成28年12月20日発行

IBJ*防除情報

第69号
(*IshiharaBioscienceJapan=石原バイオサイエンスの略)

石原の農薬登録情報①

●２０１6年11月26日～12月14日までの間に登録された弊社の新農薬（適用拡大を含む）は、次の通りです。

【適用拡大の概要】

●センイチMX1キロ粒剤

<使用時期の変更>

「移植水稲」の使用時期を「移植後5日～ﾉﾋﾞ3.5葉期　但し収穫60日前まで」に変更。

「直播水稲」の使用時期を「稲1葉期～ﾉﾋﾞ3.5葉期　但し収穫60日前まで」に変更。

●センイチMXジャンボ

<作物名の追加>

「直播水稲」を追加。

<適用雑草名の追加>

「移植水稲」に「クログワイ」「オモダカ」「コウキヤガラ」「エゾノサヤヌカグサ」を追加。

<使用時期の変更>

「移植水稲」の使用時期を「移植後5日～ﾉﾋﾞ3.5葉期　但し収穫60日前まで」に変更。

●プレキープフロアブル

<水稲用除草剤の登録における適用土壌、適用地帯の区分が廃止となったことによる変更>

・適用土壌、適用地域の欄を削除。

・適用雑草名から地域の記載を削除。

・処理時期は最大範囲で統一。

<使用方法の変更>

移植水稲の使用方法を「原液湛水散布」から「原液湛水散布又は無人ヘリコプターによる滴下」に変更。

●石原フロンサイド水和剤

<使用液量の追加>

「たばこ」に、使用液量「100mL/株」を追加。

●石原フロンサイドSC

<適用病害虫の追加>

「たまねぎ」に「白色疫病」を追加。

「キャベツ」に「苗立枯病（ﾘｿﾞｸﾄﾆｱ菌）」を追加。

「レタス、非結球レタス」の「全面土壌散布」に、「すそ枯病」を追加。

●ドーシャスフロアブル

<総使用回数の変更>

「はくさい」のシアゾファミドを含む農薬の総使用回数を「6回以内(育苗期の灌注は1回以内、本圃での株元灌注は1回以内、散布は4回以内)」に変更。

石原の農薬登録情報②

●２０１6年11月26日～12月14日までの間に登録された弊社の新農薬（適用拡大を含む）は、次の通りです。

●ランマンフロアブル
<使用方法、総使用回数の変更>
「みょうが(花穂)」「みょうが(茎葉)」について
・「30分間種根茎浸漬」を追加
・シアゾファミドを含む農薬の総使用回数を「4回以内（種根茎浸漬は1回以内、土壌灌注は3回以内）」に変更。
<使用方法の変更>
「はくさい」、「キャベツ」の「根こぶ病」の使用液量「250ml/株」について、使用方法を「株元灌注」に変更。
「いちご」の使用方法を「株元灌注」に変更。
<総使用回数の変更>
「はくさい」、「キャベツ」のシアゾファミドを含む農薬の総使用回数を「6回以内(育苗期の灌注は1回以内、本圃での株元灌注は1回以内、散布は4回以内)」に変更。

●ワンクロスWG
<使用時期の追加>
「だいず」に「は種後出芽前（雑草発生前）」/使用方法「全面土壌散布」を追加。
「にんじん」に「は種直後（雑草発生前）」/使用方法「全面土壌散布」を追加。

●石原エスレル10
<作物名、使用時期の変更>
「なし（八雲）」、「なし(新世紀)」、「なし(旭)」、「なし(早生二十世紀)」、「なし(新興)」を「なし(長十郎、豊水、二十世紀、新水、幸水を除く)」に変更し、「なし（長十郎）」を含む使用時期「果実の横径が60mm以上の時期(満開後100日頃)」を「果実の横径が60mm以上の時期(満開後100日頃)　但し、収穫１４日前まで」に変更する。
<使用回数、使用時期の変更>
「なし（豊水）」、「なし（二十世紀）」、「なし（新水）」、「なし（幸水）」について：
・本剤の使用回数を「１回」に変更
・4000倍の使用時期を「果実の横径が30～35mmの時期(満開後60～70日頃) 但し、収穫14日前まで」に変更
・1,000～2000倍の使用時期を「果実の横径が60mm以上の時期(満開後100日頃) 但し、収穫14日前まで」に変更する。
<使用時期の変更>
「もも（白鳳）」の使用時期を「満開後70～80日」から「満開後70～80日　但し、収穫21日前まで」に変更する。
<作物名の追加>
「もも（あかつき）」、「もも（川中島白桃）」、「もも（清水白桃）」を追加する。
「ゆきやなぎ」を追加する。
<使用液量の追加>
「きく」、「きく（電照栽培）」の使用液量を「2～10mL/株」に変更する。

詳しくは、当社支店までお問い合わせ下さい。

今月の特集

アブラムシ類

アブラムシの生活史について

アブラムシには、季節によって寄生植物を変える移住型と、年中同じ植物または同じ系統の植物だけに寄生する非移住型があります。また、生活環については完全生活環型が一般的ですが、生息に良好な環境下(地域)では、不完全生活環を営む種も多くなります。

出典：「農作物を加害するアブラムシ　その生態と防除」より

1.寄主転換

移住型・・・・・冬季に寄生する作物(主寄生植物)と春から秋にかけて寄生する植物(中間寄主植物)が異なる。

非移住型・・・年中同じもしくは類似植物に寄生する。

2.生活環

・完全生活環型

秋に両性個体が出現し、越冬卵を産み卵で越冬する。

・不完全生活環型

両性個体は出現しないで胎生雌虫のままで越冬する。

完全生活環型の例

アブラムシの寄主範囲

アブラムシは種類によって、寄生する植物の範囲が決まっています。寄生範囲が限定される種、広範囲な種と様々です。

果樹類

	リンゴ	ナシ	モモ スモモ	カキ	ブドウ	オウトウ	ウメ
ユキヤナギアブラムシ	●	●	●				●
ワタアブラムシ	●	●	●		●		●
オカボノアブラムシ		●	●			●	●
モモアカアブラムシ	●	●	●	●			●
ナシマルアブラムシ		●					

豆類・野菜類

	イチゴ	トマト	ナス	ピーマン	キュウリ	ハクサイ	キャベツ	ダイコン	レタス	エンドウ	ジャガイモ	ムギ類	ダイズ
ジャガイモヒゲナガアブラムシ	●	●	●	●					●	●	●		●
ダイズアブラムシ												●	
ワタアブラムシ	●	●	●	●	●						●		●
ダイコンアブラムシ						●	●	●					
タイワンヒゲナガアブラムシ									●				
ニセダイコンアブラムシ						●	●	●					
ﾁｭｰﾘｯﾌﾟﾋｹﾞﾅｶﾞｱﾌﾞﾗﾑｼ		●	●	●									
モモアカアブラムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●

主なアブラムシの特徴

ここでは、寄生範囲の広い「モモアカアブラムシ」と「ワタアブラムシ」を紹介します。

モモアカアブラムシ

無翅成虫と産仔虫

有翅成虫

体長：無翅虫　1.8～2.0mm
　　有翅成虫1.9mm程度
生活史：モモ・スモモなどの芽付近の越冬卵が2月中旬以降に孵化する(１次寄生)
　　孵化幼虫が野菜や草花などの夏植物へ移行する(２次寄生)
　　【20～25℃で幼虫期間は約７日間】
発育零点：3.2℃
特徴：キュウリモザイクウィルス・カブモザイクウィルスの媒介
寄主植物：キュウリ・ナス・ピーマン・トマトなど100種
発生：早春～秋（真夏の時期は一時的に個体数が減少）

ワタアブラムシ

無翅成虫と産仔虫

体長：無翅虫　1.5～1.7mm
　　有翅成虫1.0～2.0mm
生活史：１世代　春・秋：10～15日、夏：5～7日(年間10世代以上)
発育零点：3.5～7.2℃
特徴：　キュウリモザイクウィルス・カブモザイクウィルスの媒介
寄主植物：キュウリ・ナス・ピーマン・トマトなど多数
発生：露地栽培では早春～秋
　　施設栽培では越冬卵が４月に孵化して幹母となる

アブラムシの被害

アブラムシは茎や葉に口針を差し込み、汁液を吸収して作物に被害を与えます。また、排泄物や甘露の付着による汚れや、すす病等の間接的な被害もでます。さらに、下記のような重篤な症状が出ることもあります。

(1)縮葉

アブラムシは基本的に新葉周辺を好んで寄生します。発生量が多くなった場合には、新葉の縮葉・奇形症状が見られ、後の生育を遅延させます。

(2)ウイルス病の媒介

植物のウイルス病は、摘心等の農作業の他に吸汁性微小害虫によっても伝播することが知られています。
ウイルス病に感染した植物を治療するための農薬は、現時点では開発されていません。
ウイルス病は予防することが重要であり、また安定した栽培の観点からも、アブラムシの防除は非常に重要です。

近年では、アブラムシが多くの作物に感染できるCMV(キュウリモザイクウイルス)を伝播させることからも問題となっています。

カプクシム属植物のＣＭＶ-Ｙに対する反応

感受性素材
C.annuum
昌介

薬剤抵抗性発達の考え方

抵抗性とは、「昆虫の正常な集団の大多数を殺す薬量に対して耐える能力」が、その系統に発達したことと定義されています。

抵抗性の発達は、自然界の昆虫の集団には特定の殺虫剤の使用とは無関係に「強い個体」が存在しており、これが殺虫剤の使用で生き残り、その子孫が増えていった結果、集団として強くなる と考えられています。

このような経緯で様々な害虫は、殺虫剤に抵抗性を示す個体が増えています。
アブラムシも例外ではなく、アブラムシに対して効果を発揮しにくい殺虫剤が増えてきています。

弊社製品のご紹介

殺虫剤「ウララDF」

農林水産省登録
第２１８１２号

ウララは、アブラムシ抵抗性の発達も確認されず、安定して高い効果を発揮します。

「ウララDF」は、天敵や蜂に対して影響が少なく、IPM体系に位置付け可能なフロニカミドを有効成分とする新系統の殺虫剤です。ピーマン、非結球葉菜類、小麦、さといも、小粒核果類、ももなど40作物以上に登録を取得しております。

❶アブラムシ類や果樹・茶のアザミウマ類に高い効果

アブラムシ類、コナジラミ類などのカメムシ目害虫や、アザミウマ類に対して殺虫効果があります。特にアブラムシに対しては、種に関わらず高い効果を示し、作物によっては4000倍まで使用することができます。

❷ユニークな作用を持った新系統の殺虫剤（速効的な吸汁阻害）

対象害虫の吸汁を速やかに阻害して防除します。対象害虫が衰弱して茎葉から脱落するまでに数日かかるため、見かけ上は遅効的ですが、吸汁阻害は速効的で直ちに加害できなくなります。

❸高い浸透移行性と浸達性

高い浸透移行性を持っています。このため、葉巻を作り、薬剤のかかり難いアブラムシの防除が可能です。また、散布後に展開する新梢にも薬剤が移行しますので、果樹のアブラムシ防除にも適しています。

❹すぐれた残効性と耐雨性

葉内で適度な安全性を持ち、2～3週間の残効性があります。また、耐雨性も良好で、これは有効成分が散布後速やかに葉内に取り込まれるために、降雨による流亡で効果を減じることが少ないためと考えられます。

❺IRM(抵抗性害虫管理)、IPM（総合的害虫管理）に適合した殺虫剤

カブリダニ類、寄生蜂などの天敵に影響が少なく、IPM体系防除の一剤として適合します。有効成分は既存剤の何れとも異なる新規な作用を持っています。このため、IPMのローテーション防除に最適です。

ウララDFの登録内容は、弊社ホームページ製品情報をご確認ください

いまどきの防除
(病害虫の発生予察と薬剤による防除対策)

●農水省は、 11月27日に向こう１ヶ月の主要病害虫発生予報を発表しました。
その中から主な作物を対象に、発生が「多い」と発表された病害虫とその地域及び防除農薬(弊社の推奨農薬)を一表に纏めましたので、推進のご参考にして下さい。（特記以外の使用方法は希釈液散布）

作物名		病害虫名	地域	防除農薬（当社推奨農薬）
野菜・花き	野菜共通	タバコガ類	東海、中国、四国	トアローフロアブルCT、アクセルフロアブル*、アタブロン乳剤*
		ハスモンヨトウ	関東、東海、中国、四国	アクセルフロアブル*、アタブロン乳剤*
	いちご	炭疽病	東海	フロンサイドSC
	キャベツ	アブラムシ類	東海、四国	ウララDF、テルスター水和剤
	はくさい	アブラムシ類	北関東、東海	ウララDF、テルスター水和剤
	ねぎ	アザミウマ類	南関東	ウララDF（ネ）、アタブロン乳剤（ネ）
	キュウリ	うどんこ病	東海	プロパティフロアブル、ラミック顆粒水和剤、ドーシャスフロアブル、カリグリーン、トリフミン水和剤／乳剤
		褐斑病	南関東	ドーシャスフロアブル
		アザミウマ類	南関東	－
	きく	タバコガ類	九州	アタブロン乳剤（ミナ）、テルスターフロアブル（ミ）、ガゼット粒剤（ミ）
果樹	かんきつ	ハダニ類	四国	フロンサイドSC/水和剤（ミカ）
		かいよう病	東海	－

（ネ）：ネギアザミウマ ／（ミナ）：ミナミキイロアザミウマ ／（ミ）：ミカンキイロアザミウマ ／（ミカ）：ミカンハダニ

- 野菜共通・果樹共通でのウララDF、テルスター水和剤／フロアブルは、登録作物・害虫種を確認して御使用下さい。
- 注意事項：フロンサイドSCは施設内では使用しないで下さい。

弊社では、圃場の土壌を御送付頂き、その土壌中のセンチュウ量を測定、報告し、防除計画の御参考にして頂く無料サービスを継続実施しております。

ISK 石原バイオサイエンス株式会社 本社 開発普及部
〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2
TEL 03-6256-9170 FAX 03-3263-2078
ホームページ アドレス http://ibj.iskweb.co.jp

センチュウ検定
無料キャンペーン
実施中